

# 家庭学習応援だより

## 第5号

2学期早々、分散登校やオンライン学習になるなど、夏休みが明けたとたん急にあわただしかったことと思います。オンライン学習期間中は、子供たちの学びのために、お仕事を休んでオンラインの接続をしていただいたり、家事の手を止めてお子様の学習の様子を見ていただいたりとお家の方の熱心さが電話や端末の画面越しに伝わってきました。接続や端末の扱いについて対応させていただくことがありましたが、保護者の皆様が、オンライン学習に興味を持ち、ご協力いただきありがとうございました。また、オンライン学習の3日目ごろには、接続に関する問い合わせもほとんどなくなりました。たいへんお世話になりました。

さて、1年の折り返し地点が過ぎました。お子様の家庭学習を軌道に乗せていくために、せっかくのがんばりが中途半端になってしまっただけでは台無しです。今号では、お家の方の「こんな時こうしていれば…」という「残念ポイント」をなくすコツを紹介していきます。

### あなたはどのタイプ？



子供の家庭学習に対して、親御さん自身が「残念なかかわり方」をしていないか確認して、「残念」を「ばっちり」にチェンジしてみてください。タイプ別になっていますので、思い当たる部分をお読みいただければと思います。

#### 何でも気にして先回り 「せっかちタイプ」

- 子供のことを常に気かけ、細やかに世話を焼く傾向が強い「せっかちタイプ」。子供のためならという気持ちが強すぎるあまり、本来子供がやるべきことをやってしまうことがあります。ただ、次第に指示されたことしかやらなくなってしまふことが心配されます。対処法は以下の通りです。
- タイマーを利用して「口出し時間」をなくす工夫をしよう
- 間違ったところなどは、子供自身にやり直しをさせよう
- 子供にばかり集中しないように、他の用事を作ろう

#### 自由にさせすぎ！？ 「子供任せタイプ」

- 指示や束縛が嫌で、子供にも強制や命令を課すのはなるべく避けたい「子供任せタイプ」。子供は自分の意見を尊重してくれる大人が大好き。親子関係もうまくいっているでしょう。しかし、尊重するといっても、その時やるべきことまでをおろそかにはできません。いざ子供がつまずいたときにすぐに対応することが難しくなってしまう。対処法は以下の通り。
- その日に習ったことを聞く時間を作ろう
- 返ってきたテストを親子でチェックしよう
- 子供の学習の跡を確かめよう

#### 自分の都合が優先 「自己中心タイプ」

- 自分のペースを大事にしていて、それを乱されるのが苦手なあなた。子供の勉強も、時間があるときは熱心に見ますが、忙しいときは見向きもしない、という極端になりがちではないでしょうか。このままでは、子供の学習習慣の定着度が心配です。学習内容にもムラがあり、子供の苦手分野を作りやすい傾向があります。対処法は以下の通り。
- 毎日の時間をできる限り一定にしよう
- 目標をはっきりさせておこう
- 苦手を作らない工夫をしよう

#### 理想の姿を追いかける 「欲張りタイプ」

- 自分に厳しく、常に理想を求めて努力できるあなた。子供の教育にも同様で、「こうなってほしい」という目標のために、自分自身はもちろん、子供にも努力を求めます。ただ、本来の目的を見失うと、〇〇学習法や△△教材に傾倒してしまうことも。子供がついてこれるうちはよいですが、そうでなくなるとぶつかることがあります。
- できることを「当たり前」にせず、しっかりほめよう
- 基礎基本を大切に家庭学習を心がけよう
- 子供と一緒に楽しむような姿勢で

# まだまだある 残念ポイント

子供への関わり方のほかにも、家庭の中には、気をつけておきたい「残念ポイント」があります。イラストを見ながら、思い当たるところがないか確認してみてください。



目に入りづらい場所に表や地図を貼っている

ノートやプリント類を整理しないままにしている

学習に関係のないものが目の前においてある



家族が学習の邪魔になっている「ながら環境」にしている



学習スペースの周りが散らかっている

○ やっぱり、基本は「ほめること」。親の言葉や態度が子供の意欲に大きく影響します。自分のがんばりが認められることは、大きな自信に変わっていきます。

これで「ばっちり！」

- もらったプリント類やテストは、あっという間にたまってしまいます。種類ごとにファイリングし、いつでも見返せるようにしましょう。
- いつ貼ったかわからない表や地図は、新しいものに貼り替えてリフレッシュ。

おわりに

私も改めて自分はどのタイプか自己分析してみました。私はどちらかという「せっかちタイプ」のような気がします。子供からすると息苦しさを感じているのかなと思いつつ、今号を作っていました。昨今では、「毒親」なんて言葉をたびたび見かけることがあります。一生懸命我が子と関わってきたつもりだったのに、子供が大人になってから「毒親に育てられました」(KADOKAWA)←【実在のコミックです】などというタイトルのコミックエッセイを書かれたら、ショックで立ち直れないですね。

それは冗談としても、4つのタイプのそれぞれに偏らず、つかず離れず程よい距離感が大切なのかと私自身の反省も含めて感じました。「毒親」という言葉の生みの親のスーザン・フォワードは「この世に完全な親などというものは存在しない」と述べています。「うまくいかないのは自分のせい?」、そんなことはありません。自分を優しく受け止め、たまには自分にブレーキをかけてあげて、プレッシャーから解放してあげましょう。